



庄報

3月1日

昭和51年(1976)No.516

編集

越谷市役所企画部広報課

昭和32年8月5日第3種郵便物認可
毎月2回(1日・15日発行)

猪突猛进

(48)

「農業は大寨に学ぼう」（注：大寨とは山西省にある人民公社の一大生産大隊の名で、不利な諸条件を克服して模範的な農業生産を行っているところ）「工業は大慶に学ぼう」（注：大慶とは油田を開発した模範的な工業地区の名）「晚婚を実行し、計画出産をしよう」「人民の為に奉仕せよ」

中国を旅行してすぐ目につくのは、この種のスローガンや毛沢東語録、それに毛主席の肖像がいたるところに掲げられていることです。これらのスローガンや毛沢東語録は、中国人民にとっては、他國の教典である聖書やコーラン以上に神聖であり、絶対的なよりもとなつてゐるようです。

かつての軍国主義教育時代の日本と比較して、「中国はある頃の日本と丁度同じだよ！」としたり顔で説明する人が多いのも、一面

ではうなづける状況です。しかし、そんな皮相な見方が正しくないことを、二週間の中国の旅で知りました。中国の歴史をたゞに寄せる信頼と敬愛は、私たち日本に与えられたことを、当然のことながら中国人民が一番よく理解しています。中国人民の毛沢東主席はじめて人間としての生舌と權利然に扱われてきた中國人民が、毛沢東主席指導の社会主义革命で、本には想像に絶するものがあつてゐるのである。國家建設の方針として、市長黒田重晴

実戦を自らの行動と教育に
八億の国民に植えつけて來
東という指導者に、私はあ
て感服するだけでした。
中国から帰った私たちを守
けていたのは、ロッキーード
した。中国と日本の指導者
と対象的なことを。
そしてロッキーード事件は早
く直接被害を及ぼしていくま
わく「黒田市長も丸紅からぱ
ツをもらっているのではないか」
もちろん豪傑的より一歩引

よって
た毛沢
らため
待ち受
件で
のなん
私にま
す。い
ヒーナ
?」上。
へる傍
くま
んた
では
界で
いさ
縣県
自こ
免れ
た些
まは
いは
中

（そしり）です（すばる）指揮権発動（さしうげんはつどう）をいう人を（にんを）せん。

が、私はこのへ
造船疑惑事件の
小なり政治家は
感然たる勢力をも
へた總理大臣が
八臣になつたので
造船疑惑事件の
への介入でもせ

心な
めり
「こ
めるこ
と正義
はドン
近頃
自問を
なる時
でもう
進しま
でもう
治を市
権力者
上がつ
社会
はみ
政治

とが出来るで
なんな汚れた政
の確立した市
キホークなの
私は、傷つい
して、ふと立
があります。
私は思ひな
す。『お前は
のための政治
民のものにす
たのではない
のです』

政治の中、愛政をめざす私
だろうか？」
た心にこんな
ち止まりたく
おしてまた前
おされた一部の
打破し、政
るために立ち
か！」と自分

中国から帰つて（その二）

市長黑田重晴

A black and white photograph capturing a moment of intense focus. A person, dressed in a light-colored, long-sleeved shirt and trousers, stands on a dark, textured surface that appears to be a ship's deck or a dock. They are leaning forward, their body angled towards the right side of the frame. Their hands are positioned as if they are handling or examining a small object, possibly a piece of equipment or a sample. The background is filled with large, rectangular structures, likely shipping containers or cargo holds, arranged in a grid-like pattern. The lighting is dramatic, with strong shadows and highlights that emphasize the texture of the person's clothing and the industrial setting. The overall atmosphere is one of concentration and purpose.

綾瀬川でフナ600匹が浮く

去る2月17日朝、市内蒲生愛宕町の藤助河岸近くの綾瀬川に、5センチから30センチのマブナやヘラブナが大量に浮き上がりました。市公害モニターの方から連絡を受けた公害課と越谷保健所では、原因究明のため川の水を採水分析しましたが、毒物は検出されず、工場排水か酸素欠乏原因が分かっておりません。

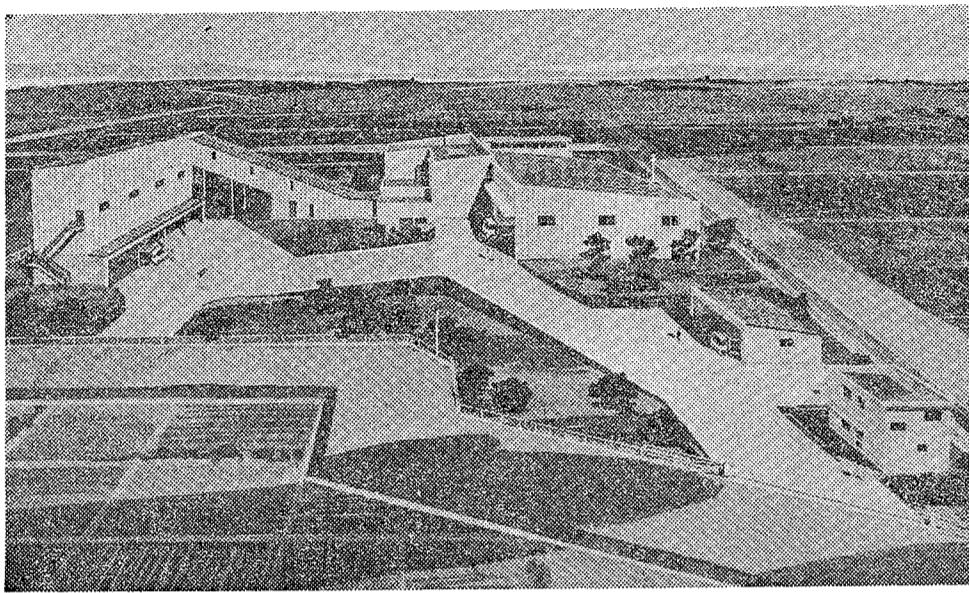
この頬瀬川は、川の汚れで全国一のレッテルがはられており、昨年9月以来、酸素欠乏などで魚が浮き上がったのは今度で5回目。

市では、現在市民のみなさんと一緒に河川浄化運動を実施しているところであります。この問題については、綾瀬川県南水域浄化対策推進協議会に図り、工場の立ち入り検査などを検討しています。



「Eの進化と資源化をはかるZ

—荻島地区に(仮称)粗大ゴミ処理場を建設・完成はことし8月末の予定—



↑完成予想図 ごみ処理場のものづくりイメージを変え、さらに騒音や粉塵対策から貯蔵ホッパー（貯蔵庫）やベルトコンベアー、集塵機まですべて建屋でおおう屋内設備型とし、造園工事を含めた「緑の工場、造りをめざしています。1日の処理能力は5時間当り75トン。

かつてゴミの排出量をたとえて「文化のバロメーター」などといわれ、消費を美徳とされた時がありました。戦後の経済の高度成長は「大量生産・大量消費時代」「使い捨て時代」を出現させ、これらを反映して無制限、無秩序にゴミは排出され、その後の石油ショック以後一時減少傾向を示したもので、今日にあっては再び増加の一途

「環境破壊のパロメーター」と言つても過言ではありません。また、経済成長の過程は絶えざる構造変化を伴い、全体としてもののが豊かな社会をつくりだしました。プラスチック類、家庭電気製品、家具、什器など多くの新製品の登場などですが、このような傾向は、当然、古いタイプのスクランプ化をたどっています。

が耐久消費財の分野まで及んできました。しかしも最近は廃品の再利用、メカニカル下取りが少なくなつてきましたことから粗大ゴミ増加原因をなしていると言つてもよいでしょう。

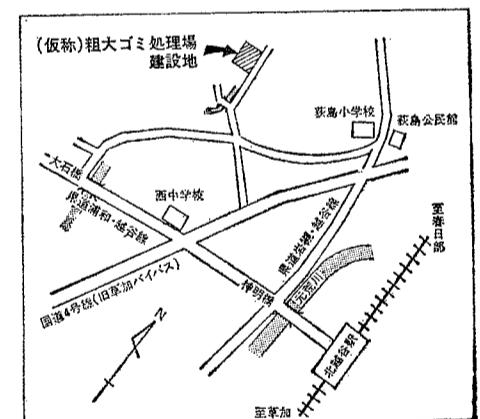
越谷市における粗大ゴミ（不燃性ゴミ）の処理量は、昭和四十四年には五、四五トンとこの五年間で

造りの処理棟（九二〇^皿）からなり、内部には、最新式のゴミ破砕機、排出コンベヤー、選別機などが設備され、一般家庭から出される不燃物等（プラスチック類も含む）はすべてここで処理することになります。

壁)でおおう屋内設備設計してあります。選別装置で分、可燃物、不燃物、プラスの四種類にゴミを分別することができ、鉄分等は、第二のにして再生利用をはかり、廃減量と資源化をはかるとい、な役割をはたします。総工億五千万円で、一日の処理五時間当たり七十五トンです。

家庭から出されたゴミ容器の中をのぞいてみよう……アキカン、包装紙、新聞や雑誌、野菜くず、プラスチックの容器、アキビン、残飯……なんとさまざまなものが入っていることだろう。収集日には、このゴミ容器に入らない不用になつたテレビ、洗濯機、冷蔵庫、家具などいわゆる粗大ゴミも出される。越谷市では、このようなゴミが毎日二十五トンもはき出され、人口増加と消費生活の向上によって過去五年間にゴミの量は約二倍に増加、その中の粗大ゴミ、いわゆる不燃物ゴミの搬出量は昭和四十四年の一千トンが四十九年には五千五百トンと、この五年間に五・五倍にも増えています。現在越谷市ではこのような粗大ゴミ等の不燃物は、市内増森の市有地不燃物埋め立て地で埋め立て処理していますが、この敷地（五万六八六四平方㍍）もすでに三分の一ほど埋め立てられ、ここ数年のごみの排出量の推移から、あと三年ぐらいで満杯状態になり、また新たな用地確保も環境保全上困難な状況でもあり、このほどゴミの減量化と資源の再利用の促進をはかつて新たに市内砂原三五五番地（旧不燃物捨て場跡地）に不燃性粗大ゴミを処理するための（仮称）粗大ゴミ処理場を建設（起工式二月二十八日）することになりました。

約四分の一程度にす
ることができ、今後内
の埋め立て地の長期
利用をはかることが
できます。



公害防止対策には特に配慮

市では、これら不燃物は埋め
て処理で行つており、現在市内増
森林の市有地五万六八六四平方メー
トルを昭和四十八年にゴミの最終
処分地として確保し、埋め立て処理
していますが、埋め立てを始
てから約二年余りで二万一千平
方メートル、敷地の三分の一以上
埋め立てられてしまつた状態で
す。不燃物等のゴミが年追うごと
に増加していく中で今後もこのま
ま埋め立てをした場合、約三ヶ月
で満杯となる計算であり、さらば
新しい埋め立て地を確保していく
なければなりません。しかし、埋
立地の確保は財政上はもちろんん
ですが今日にあつては環境保全上重
要な問題¹、
粗大ゴミ処理場は、大型ゴミを
はじめ空カン、空ビンなどの不燃
性ゴミを破碎機によつて圧縮、破
碎し、十センチほどの小さなゴ
ミの体積
に処理する施設で、ゴミの体積

約五・五倍にも増加しています。このような考え方をした場合、昭和五十二年には約一萬トンにもなると推察されており、ゴミ処理問題は深刻化するばかりです。

造りの処理棟（九二〇^皿）からなり、内部には、最新式のゴミ破砕機、排出コンベヤー、選別機などが設備され、一般家庭から出される不燃物等（プラスチック類も含む）はすべてここで処理することになります。

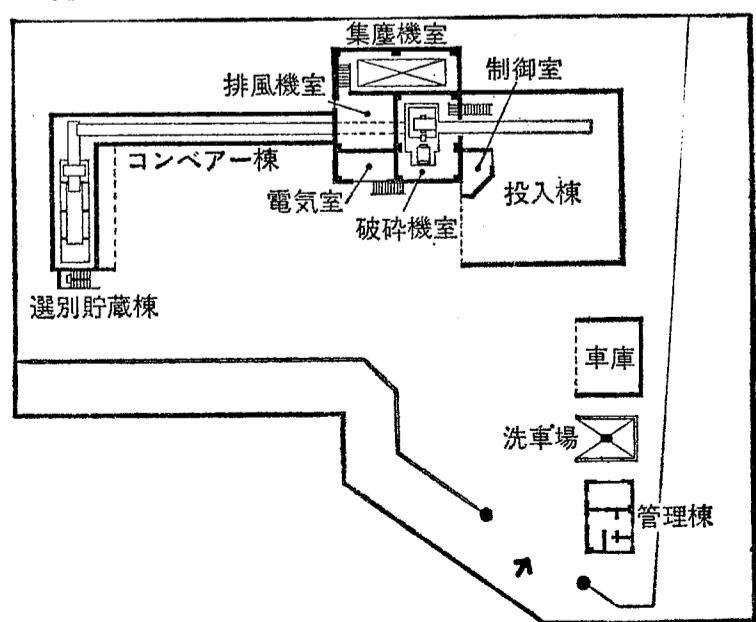
壁)でおおう屋内設備設計してあります。選別装置で分、可燃物、不燃物、プラスの四種類にゴミを分別することができ、鉄分等は、第二のにして再生利用をはかり、廃減量と資源化をはかるとい、な役割をはたします。総工億五千万円で、一日の処理五時間当たり七十五トンです。

のものを設置し、外に放出させないよう十分配慮の上、排出濃度を〇・〇五以下にとどめるための防止設備が完備されます。

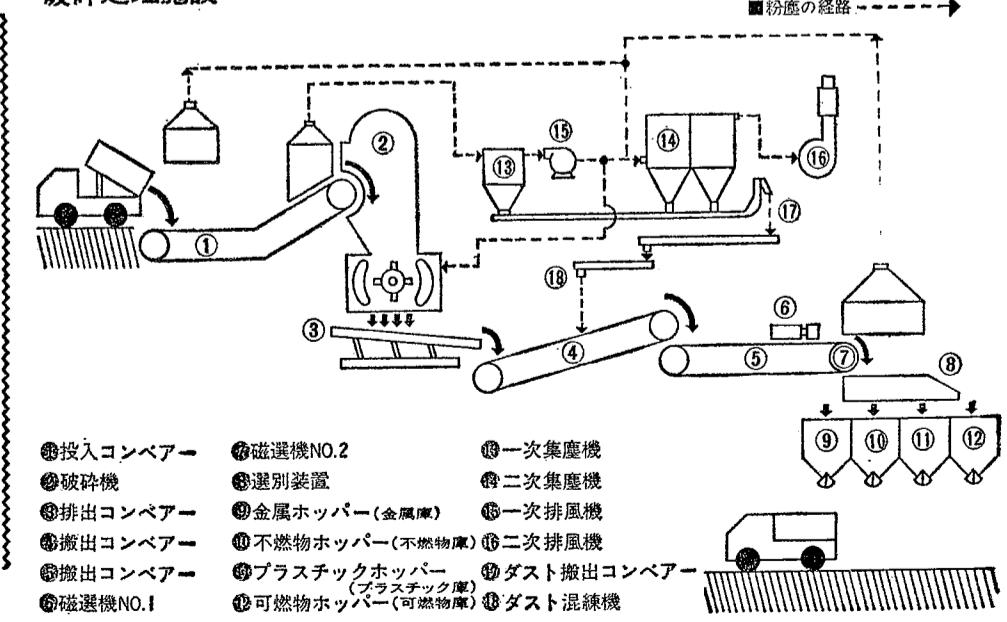
交通の問題については、市内から排出される不燃物の量は一日約二十五トンぐらいで処理場へ搬入する車台数は延べ五十台ぐらいになると予想されます。施設への搬入路は道路幅六メートルに拡張し歩道についても二メートル幅で設置する計画であり、安全対策には特に万全を期していきます。

搬出にご協力を
ありがとうございますので市民のみなさんが
ゴミとして出される時は、LPGが
スの入ったボンベ等の危険物は絶
対に出さないようお願いします。
もし、ゴミとして出す場合は必ず
スプレーのカンに穴をあけて中の
ガスを完全に外に出してから出す
ようにしてください。
ごみの出し方については三めん
に掲載した表をご参照ください。

配置図



破碎処理施設

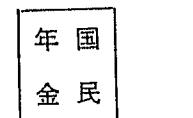




関東郡代伊奈忠尊と

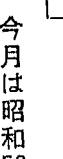
大川戸杉浦氏(その3)

そればかりでなく、伊奈家が安
永三年に幕府から借用した金一万
五〇〇両の返済延期を幕府に願
つた際、これが許されなかつたの
に憤慨し、関東郡代の職に替えて



保険料の納め忘れは

ありませんか

この期間を過ぎますと、いまま
での納付方法と異なり、社会保
険事務所に納めるか、市役所に備え
られる国民年金納付書を使って
ばならないなり。手数料がかりま
すが、納め忘れのままにしてお

国民年金保険料は三ヶ月ごとに

納期が決まっていますが、今
月は、昭和50年度分(昭和51年3月分)

年4月から昭和51年(3月分)

の最終納期です。

銀行あるいは郵便局に納めなければ

ならない限り、手数料がかかりま
すので注意してください。

また、納め忘れのままにしてお

年金を受けていた方にはどうか
ばならないなり。手数料がかかりま
すので注意してください。

銀行あるいは郵便局に納めなければ

ならない限り、手数料がかかりま
すので注意してください。

△加入金は

1人350円

△加入申込書

△年金額

